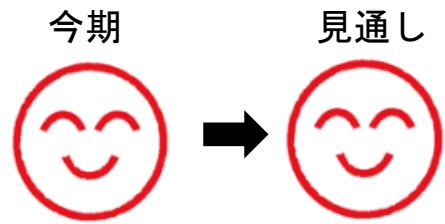


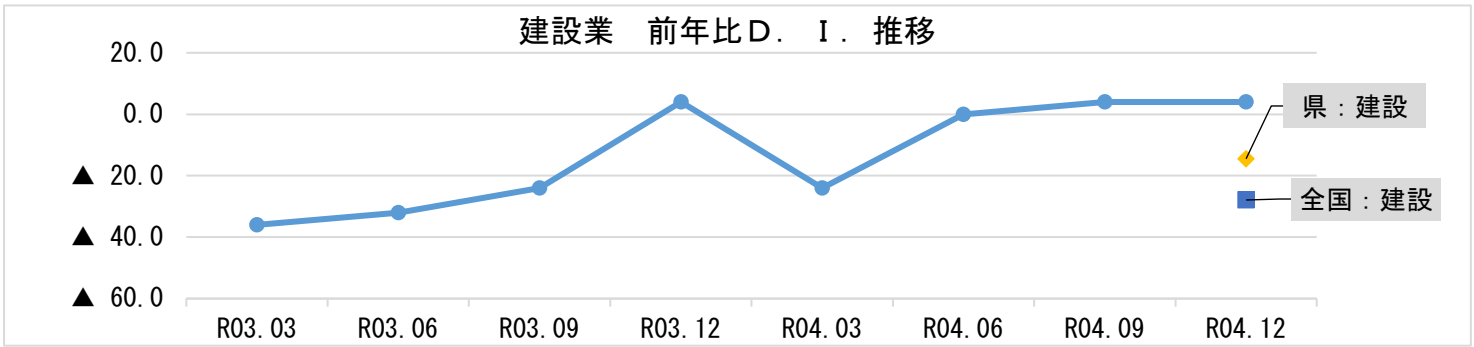
建設業

回答率：100%（25/25）



■丹波市の景況推移

原材料・仕入価格の上昇、人手不足問題を抱える事業所が多いが、リフォーム工事に加えて新築工事の受注も増えつつあり、景況は回復傾向にある。



■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

木材の価格高騰は、高止まりでやや落ち着いてきている。建設資材や住宅設備の納期遅延の状況は改善傾向にある。リフォーム工事の受注に加えて、新築工事の受注も増えつつある。ただし、現場の人員確保に苦しむ事業所が多く見受けられる。

【丹波市の来期の景況予想】

材料等の価格高騰は、継続すると思われる。受注の際には、見積もり有効期間を短縮するなど、対策を施す必要がある。1月に大雪による水道管破裂等の被害が出ている地域があり、既に修理の受注がある。2月以降も積雪等があれば除雪作業等が増える可能性もある。

■全国の景気動向

大阪万博に向けての建設ラッシュがある。公共工事の発注減少に加え、原材料等の価格高騰により収益環境がとても厳しい状況にある。全国的に現場の人員不足と高齢化が大きな問題となっている。

■県下の景気動向

北部のエリアでは、積雪により除雪関連事業の増加や宿泊施設の改修工事が増え、業況は回復傾向にある。一方で、受注の好調な事業者においても人手不足から追加受注の断念や、工期の延長が起きている。また、災害復旧工事等が年内で終了した事業者では、今後を不安視する声もある。

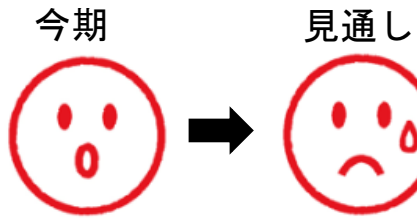
■地区ごとの回答（前年同期比）

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	1	2	0	3	0	2	8	32.0%
不変	2	5	1	0	2	0	10	40.0%
悪い (悪化+やや悪化)	0	5	0	1	1	0	7	28.0%
合計	3	12	1	4	3	2	25	100.0%

製造業

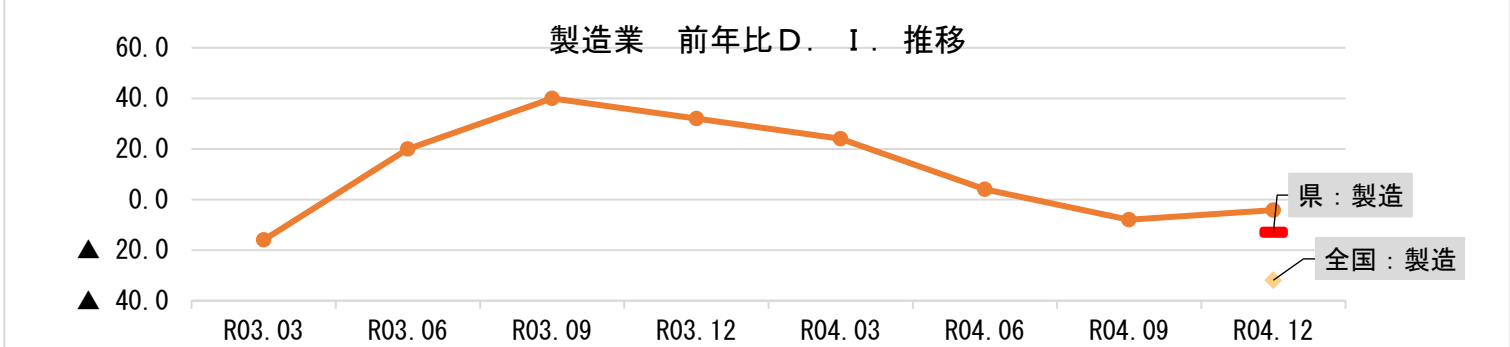
回答率：96%（24/25）

2022年10月～12月期調査



■丹波市の景況推移

製造業全般において、原材料の価格高騰が継続しており、利益を圧迫し厳しい状況が続いている。今後も原材料の高騰、電気料金の上昇を受け、コストが継続的に増加すると見込まれ、業況は厳しくなると予想される。



■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

製造業全般として原材料高騰により原価率が上昇傾向にある。大手企業との取引については、競合他社が多いため値上げ交渉を行いにくい状況が続いている。大手メーカーの下請けは為替変動やウクライナ情勢などに左右され、車関連の部品製造では、メーカーの不安定な受注に左右され、従業員を休ませるなど、厳しい景況感が続いている。

【丹波市の来期の景況予想】

人件費、原材料値上げに対し、加工単価を上げてもらえない状況が続いている。利益の薄い状況でも加工を継続するよりほかない。今後も原材料の高騰、電気料金の上昇を受け、コストが継続的に増加し、業況は厳しい傾向にある。

■全国の景気動向

自動車関連は半導体などの部品供給が不足しており、輸送用機械器具製造は2カ月連続の悪化。飲食料品製造では原材料価格の高騰などの影響を大きく受けている。寝具製造業など一部業種からは全国旅行支援などの影響で2カ月ぶりに改善している。

■県下の景気動向

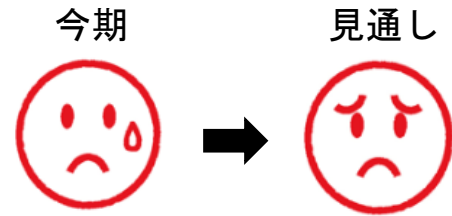
食料品関連は、行動制限のない年末需要が後押しし、業況は改善したが、繊維関連は水道光熱費や最低賃金引き上げによるコスト増で大幅に悪化。機械・金属関連は精密部品の入荷待ち等が影響し、業況が悪化した。今後も原材料の高騰が継続しており、収益の見込みが立ちにくい厳しい状況が続くことが懸念される。

■地区ごとの回答（前年同期比）

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	1	2	3	1	2	0	9	37.5%
不変	1	2	0	1	1	0	5	20.8%
悪い (悪化+やや悪化)	0	4	2	1	0	3	10	41.7%
合計	2	8	5	3	3	3	24	100.0%

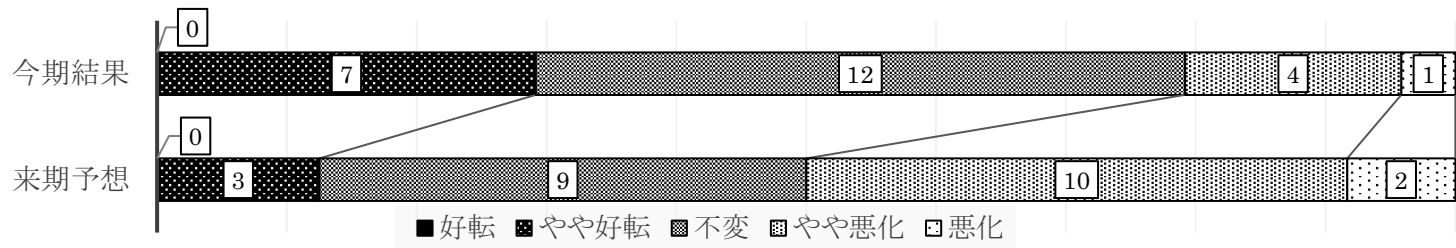
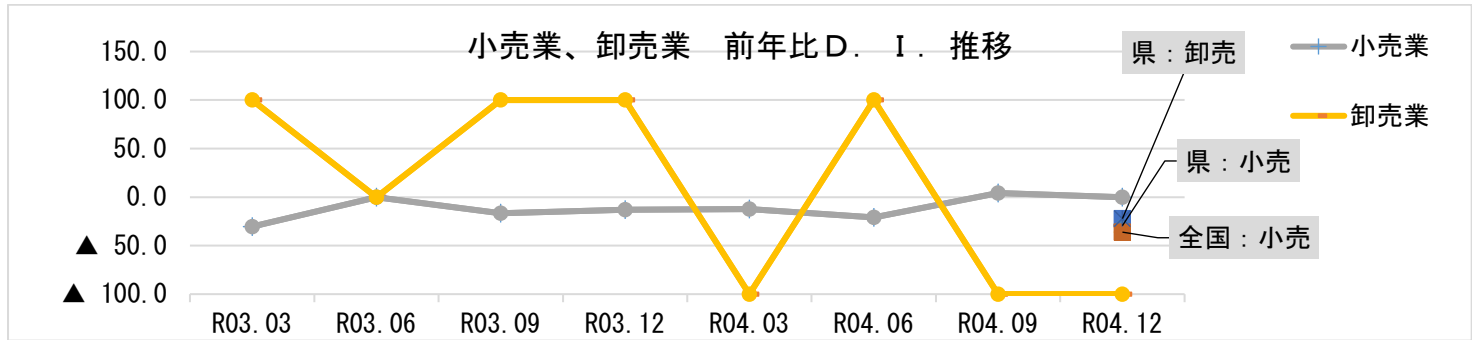
小売、卸売業

回答率：96%（24/25）



■丹波市の景況推移

1月～2月は例年閑散期となる業種が多い事に加え、今年は更に食材をはじめとした物価高騰が激しく、個人消費の低迷予測から、悪化の予測が進んでいる。



■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

久しぶりに行動制限の無い年末年始を迎え、お土産品や贈答品の需要が戻ってきた感があった。一方小売業全体としては、コロナの影響は残っており、今年も以前のような年末商戦というような盛り上がりはあまり感じられず、客数・売上共に減少している。他、特に自動車販売に於いて中古車価格が高騰し、新車との差がなくなっている。部品代の仕入も高止まりで収益面では厳しい状況が続いている。

【丹波市の来期の景況予想】

1月～2月は例年閑散期となる業種が多い事に加え、今年は更に食材をはじめとした物価高騰が激しく、個人消費の低迷予測から、悪化の予測が進んでいる。これまで、コロナ禍でも比較的需要を確保してきた食品小売でも厳しい状況を予測している。

■全国の景気動向

観光支援策による国内観光客の増加、また一部インバウンド需要が戻り、人流が出てきたことで、観光地小売業には好影響が生まれた。一方、原材料価格高騰による商品単価上昇により、幅広い小売業種で買い控えの反応が出ている。また、原油価格の高止まりにより、燃料販売も一般家庭向け、企業向け共に販売量が低下している。

■県下の景気動向

特に食料品小売業は、行動制限のない年末であったことから客数および売上高ともに前年比で増加の傾向が見られた。また観光地ではもちろんのこと、そうではない地域でも地元客で賑わい盛況であったという声が聞かれた。

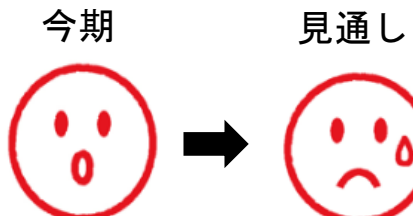
■地区ごとの回答（前年同期比）

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	1	2	0	1	1	1	6	25.0%
不変	3	4	0	1	2	1	11	45.8%
悪い (悪化+やや悪化)	2	2	1	2	0	0	7	29.2%
合計	6	8	1	4	3	2	24	100.0%

飲食・宿泊、サービス、その他業種

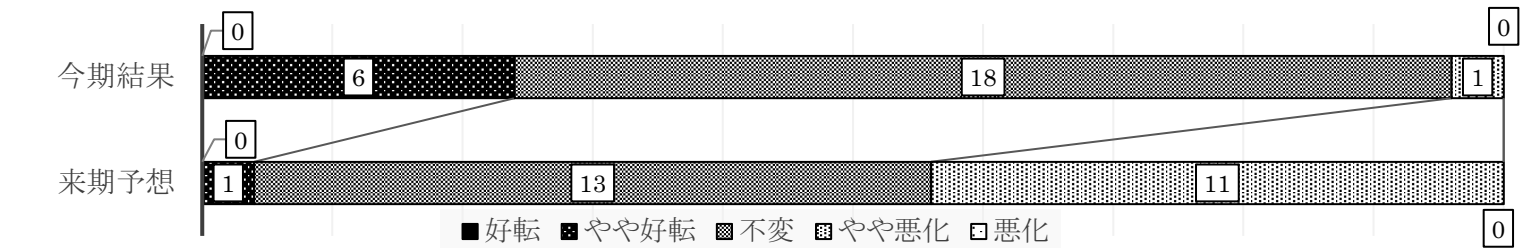
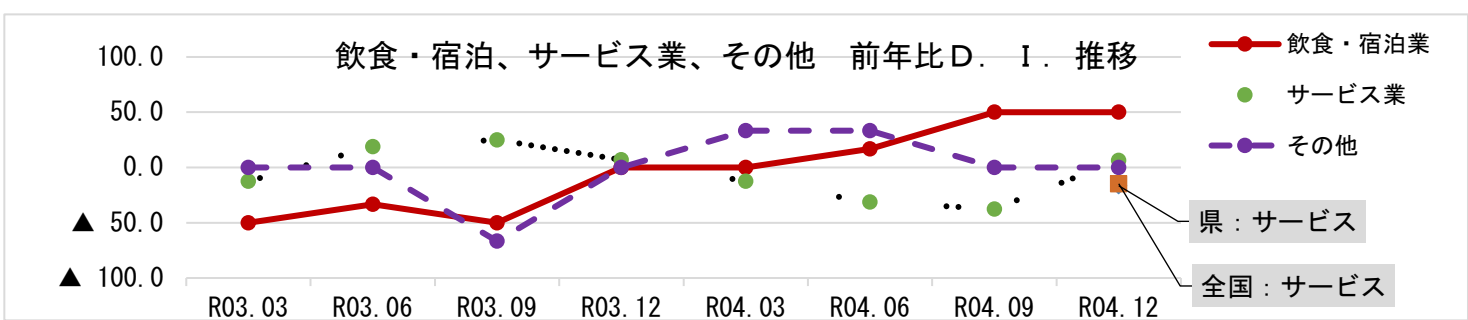
回答率：100%（25/25）

2022年10月～12月期調査



■丹波市の景況推移

徐々に人流が回復していたが、年末に感染者が急増したことにより、消費マインドが低下。また、継続的にコストが上昇し、今後も業況が厳しいと想定される。



■丹波市の景気動向

【丹波市の今期の景況】

第8波の影響により団体客を中心に事業を展開している業種は客足が鈍く、売上高の回復が図れていない。運送業では、個配や配送の需要が増加し、人手不足が発生。全業種で原油・原材料の高騰、電気代やコストの上昇により業況、採算、資金繰りが悪化しており、厳しい状況となっている。

【丹波市の来期の景況予想】

毎年、最も利益が上がる時にコロナの感染拡大が発生し、売上確保が厳しかったが、コロナが5類に引き下げられる報道もあり、徐々にコロナによる利用機会損失は逓減されていくと思われる。ただ、電気代や原材料の高騰が継続的に発生し、コストの上昇が経営に与える影響は不透明であり、今後も懸念事項として挙げられる。

■全国の景気動向

人流も戻りつつあり、ビジネスやレジャー客、飲食の来客数なども回復傾向にあったが、第8波の影響により一時的に低迷。全国旅行支援により観光ビジネスに関連する業種については売上高が増加しており、各業種ともプラス水準で好調傾向が続いている。しかし、回復傾向にある中で人手不足が顕在化しており、求人を出す反応は鈍い。

■県下の景気動向

一時的に感染者数が増加したが、客足は徐々に戻ってきている。ただ、原油・原材料の高騰によりコストが上昇していることから、その都度価格を見直している事業所と転嫁が行えない事業所とに二分されている。売上の増加が見られるが、採算や資金繰りが悪化している業種も見受けられる。

■地区ごとの回答（前年同期比）

	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計	構成比
良い (増加+やや増加)	0	6	1	1	1	0	9	36.0%
不変	4	1	1	3	1	1	11	44.0%
悪い (悪化+やや悪化)	1	1	2	0	1	0	5	20.0%
合計	5	8	4	4	3	1	25	100.0%